

令和7年度自己評価計画

石川県立金沢泉丘高等学校(通信制課程)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
1 家庭の理解と協力を得ながら個に応じた生徒への学習支援を進め、報告課題の提出状況や出席日数の改善を図るとともに、単位の修得率を上げる。	① 生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。教職員は「学習進度表」を定期的に郵送することに併せて、学校配信メールやGoogle Classroomで「教務からのお知らせ」を発信する。	教務課 教科会 学年会	・年度当初はレポートを提出するものの後期試験受験まで到達できない生徒が見られるが、例年よりも最後までレポートを提出できた生徒が増加してきている。 ・受験率を上げるため、年間を通して継続的に学習に取り組めるよう、Google ClassroomをはじめとするICTツールの活用やスクーリングの内容の充実を図りたい。	【成果指標】 第1期締切までに報告課題を提出した生徒が継続的に学習をすすめ、定期試験を受験している。	第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
	② 教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日に質問を受ける体制をつくる。また、メールやGoogle Classroom、電話を含めいろいろな形で質問に答える。	教務課 教科会 学年会	・質問者数、質問時間とも前年より増加している。Google Classroomによる質問が増加してきている。今後も質問形態の多様化への対応、質問機会の拡大も含め、Google Classroomの内容の一層の充実を進めていく。	【成果指標】 生徒が、メール、電話やGoogle Classroomで、教科や科目の質問をしている。	メール、電話やGoogle Classroomで教科や科目の質問をしたのべ生徒数 が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
2 学校における日々の学習や生徒会活動などを通して、基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図る。	① 教職員が登校指導によるあいさつ活動やショートホームルーム等、生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。	生徒・図書課 学年会 担 任	・前年度生活規律を守っているという質問によくあてはまると回答した生徒の割合は79.4%である。本校生徒は、生活規律において高い意識をもって生活を送っている。また、「生活指導は適切に行われている」という問に肯定的な回答が99%となっていることから、落ち着いた生活を送れていると考える。	【成果指標】 生徒が自己の生活規律を意識して学校生活を送っている。	「自分は生活規律を守っている」という質問によくあてはまると回答をした生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C以下の場合 は取組体制 を検討する。	
	② いじめは絶対に許されない行為であることをホームルーム等で啓発する。また、生活体験発表の機会等を活かし、他者を思いやる心や自己肯定感の育成を図り、よりよい学校づくりに努める。	生徒・図書課 学年会 担任	・生徒会行事に参加した後、楽しかったなど充実した時間が過ごせた話を多く聞くことができた。生徒会活動に、より積極的に参加する生徒が多く見られた。 ・前年度学校生活が全般的に楽しいという質問項目に、よくあてはまると回答した生徒の割合は、39.4%である。	【成果指標】 学校生活が充実していると感じている。	「学校生活が充実している」という質問に「よくあてはまると回答をした生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C以下の場合 は取組体制 を検討する。	
	③ 「ほけんだより」等で健康に関する情報を提供し啓発するとともに、教職員が身体計測、各種検診の受診を呼びかけて自己の健康管理への意識を高めるようにする。	保健課・ 相談室 学年会 担 任	・令和6年度の検診受診率は、医師が2名となり、順番待ちの時間が短くなったことで、内科・歯科とも50%を超え、前年度より向上している。	【成果指標】 生徒が各種検診を受診している。	生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合 は取組体制 を検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度	判定基準	備考
3 生徒一人一人の生活状況を様々な方法でより把握し、教職員間で共有することにより、組織的に支援する体制をつくる。	保護者懇談会と生徒の個人面談を、6月と10月に実施。学校配信メールやオンライン学習システムなどにより、面談に係る情報や、学校運営について生徒及び保護者に発信していく。	総務課 学年会 担 任	・昨年度、前期は生徒数521人に対し、保護者は276人参加し、その割合は53.0%、後期は生徒数565人に対し、239人が参加し、その割合が42.3%であった。面談数が更に増加するように、日程や周知方法、そして内容等について改善工夫していく。	【努力指標】 保護者が担任と年度内に1回以上懇談している。	保護者懇談会の参加率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
		総務課 学年会 担 任	・前期の生徒数521人に対し、364人が参加しその割合は69.9%、後期の生徒数565人に対し、350人が参加しその割合は61.9%であった。	【努力指標】 教職員が生徒と年度内に1回以上面談している。	生徒との面談実施率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
4 各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	教 頭 各 課 各 学 年	・前年度4月から1月末までの平均取得日数はおよそ一人当たり10日、5日以下の取得が4人であった。 ・時間外勤務の報告で、毎月8割前後が20時間以内に収まっている。	【努力指標】 各々が10日以上 の年休を取得している。	年次休暇を10日以上取得したという教員が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
5 ICTを活用した連絡体制を整えるなどして、レポートの提出や学校行事への参画に対する意識を高めていく。これにより、生徒の自己肯定感を高めるとともに、卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を進めていく。	① 進路説明会およびロングホームルームでの就職、進学の流れの説明を通して、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	進路課 学年団 担任	・6月のLHで進路説明を行う。前年度は12月のLHに進路説明の時間を設け、肯定的な回答が97%となっている。また、前年度6月開催の大学や専門学校による進路説明会では、参加者161名中、95%の生徒が進路選択の参考になったと回答している。	【満足度指標】 就職、進学までに必要なことや手順を理解し、卒業後の進路の方向性を持つことができるようにする。	アンケートでLHでの進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったという質問によくあてはまると答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	
	② 生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるよう総合的な探究の時間などを活用して就労の意義や進路に係る情報をわかりやすく提供していく。	総務課 進路課 教務課 卒業学年	令和7年3月卒業者数161名に対し、進学85名、就職22名で、66.5%進路決定している。今後もより充実したキャリア教育を進め、進路決定率を高めていく。	【成果指標】 生徒は卒業時に進路が決定している。	卒業時に進路が決定している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合 は手だて を検討する。	